

1. 学校・市町村概要

- 教育目標：北方の伝統を継承しつつ 北方の発展に積極的に参画し「ふるさと北方」を創造する 児童生徒の育成
- 所在地：宮崎県延岡市北方町川水流卯972
- 児童生徒数（H29.5.1時点）



学年	小学校								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	1	2	3	特別支援学級	計	
児童生徒数	24	25	31	24	18	26	4	152	26	33	30	5	94	246
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	1	1	1	2	5	13

- 延岡市概要：〔人口〕122,669人 〔学校数〕小学校27校, 中学校16校

2. 導入経緯

- ・平成22年度 少子化等を踏まえ、よりよい教育環境を実現するため「延岡市立小中学校適正配置検討会議規則」を制定
- ・平成23年度 北方地区において「学校再編に係る説明会」を実施
- ・平成25年度 「延岡市立小中学校設置条例の一部を改正する条例」を公布
- ・平成26年度 4月北方学園小中学校開校(小学校4校, 中学校1校を統合)

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 教育方針の一本化によって、無駄のない効果的な教育課程の編成を可能にする。
- 小学校と中学校の教員の相互乗り入れの授業を可能にする。
- 小中一貫校を核とした新たな教育コミュニティを形成する。

形態・施設

- 施設一体型
- 小学校と中学校の棟を1・2階の渡り廊下で連結
- 小学校・中学校同一の職員室
- 小学校・中学校同一の保健室(養護教諭は2名配置)

教職員体制

- 校長:1名配置
- 教職員:一部教職員に兼務発令
- 小中一貫教育コーディネーター:指名なし

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例:実施なし
- 区切り:6-3
- 行事:小学校と中学校の合同入学式(卒業式は小中別に実施)

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制:第3学年から音楽科, 第5・6学年から外国語活動, 第6学年から算数科, 体育科に導入
- 乗り入れ:中学校教員が小学校の算数科, 音楽科, 体育科, 外国語活動に乗り入れ

児童生徒の異学年交流

- 縦割りの清掃活動
- 全校集会
- 体育祭, 文化祭, 入学式

市町村教育委員会等による支援

- 「延岡市わかあゆ教育プラン」に基づき, 市内全ての中学校区で小中一貫教育を実施。
- 施設一体型小中一貫校を4校設置し, そのうちの2校は特認校制度を取り入れ, 市内全域から児童生徒を受け入れたり, 外国語教育の充実のためALTの派遣回数を多くしたりしている。(※本校は該当しない)

小中一貫教育の導入に関して典型的に指摘される課題の一つとして、子供たちの人間関係や相互の評価が固定化されるのではないかと懸念があります。これを解消する工夫として、地域との連携により学校外の集団への所属を促すことなどが考えられ、この点で延岡市立北方学園における取組が参考になります。

本校では、教科指導において中学校の教員が小学校の教科指導に乗り入れ指導を行い、多様な教員と関わらせたり、特別活動において小中合同行事を計画し、異学年交流を充実させたりしています。また、開校当初から「学校を核としたまちづくり」「地域とともにある学校づくり」を目標に、地域人材・地域素材や関係機関と連携した取組を行っています。児童生徒が地域や関係機関等の様々な人と関わることで、学校外の集団への所属が促されています。

● 学習場面における工夫

乗り入れ指導により小学校での発展的な指導や習熟度別指導の中で、個に応じた指導を行っています。本年度は、中学校の数学科、英語科、音楽科、保健体育科の教員が乗り入れ指導を行っており、児童生徒の多面的な評価につなげています。

● 学校行事や生活場面における工夫

施設一体型の利点を生かし、小中合同での児童会・生徒会活動や入学式、体育祭、文化祭（清流祭）などの学校行事を実施しています。また、異学年での交流給食なども行っており、日常的にも異学年で交流する機会を設けています。

● 地域人材・地域素材（ひと・もの・空間）や関係機関と連携した取組の工夫

地域の「ひと・もの・空間」に触れ、地域のよさを知る活動（小学校）

小学校では、「北方PR大作戦」を大テーマに、発達の段階に応じて学年ごとのテーマを設定しています。地域住民、保護者、NPO法人、行政機関といった様々な立場の大人と体験学習や出前授業を通して関わりながら、北方町のよさを知り、発信する学習を行っています。

第1・2学年	北方の「ひと・もの・空間」に触れる学習
第3・4学年	「北方探検隊」（体験・生産・交流） 休耕田の活用、特産物の生産・販売
第5・6学年	「北方PR隊」（探求、比較、創造） 名所訪問、新名所の開発とイベントの企画
※統合により学校がなくなった地域でも活動しています	



<自分たちが考えた名所コース（フットパス）の案内をする第6学年児童>

小学校で身に付けたことを、中学校で発展的に生かす
（9年間の系統性と連続性を意識した学習内容）

地域に参画し、より広い視野から地域を考える活動（中学校）

【干支のまちフェスティバル】

学校とPTA、高齢者クラブ、行政、商工会が協働して行う地域最大のイベントに、中学生が企画の段階から参加しています。当日は、小学生はステージ発表、中学生はステージの進行や出店店舗の販売補助、広報活動等を行います。

【北方サミット】

保護者、行政、地域住民とともに、北方町の現在と未来について意見交換をします。これまでの体験や得た知識をもとに、地域への思いを伝えます。

【その他の活動】

地場産業体験学習	小学校での体験をもとに、地域の果樹園や茶園などを訪問する（中学校第1学年）
職場体験学習	人との関わり方や思いの伝え方も学び、修学旅行先での北方町PR活動につなげる（中学校第2学年）



<地場産業体験学習>



<干支のまちフェスティバル>



<北方サミット>

5. これまでの成果と課題、今後の取組

地域や関係機関と一体となった活動の機会を豊富に設定することにより、次のような成果が表れています。

- ・ 児童生徒が地域への関心を高め、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加するようになってきました。
- ・ 様々な立場の大人と関わる経験を重ねることにより、児童生徒が生き方を学び、将来の夢や目標をもつ機会になっています。
- ・ 児童生徒のコミュニケーション能力の向上にもつながっています。

今後は、開校当時の思いを継承しながらより効果的な活動内容となるよう工夫し、「学校を核としたまちづくり」「地域とともにある学校づくり」を一層進めていきたいと考えています。

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計
（平成29年度全国学力・学習状況調査より）

	小学6年	中学3年
本校	75.0%	76.6%
全国	63.9%	59.2%